



石狩市公立小中学校事務職員学校間連携会議

第127回(今年度第1回) 2023年5月23日(火)14:00~ 於:市立図書館



議 事

1. 議長挨拶

2. 経過報告

4月21日 石教振研究協議会

3. 2022年度役員体制の確認

議長 ○○○○ (花川中)

事務局長 ○○○○ (花川小)

次長 ○○○○ (花川中)

研究グループ代表 ○○○○ (緑苑台小)

調査研修グループ代表 ○○○○ (花川南小)

※上記の他石狩市公立小中学校事務職員協議会三役(会長・事務局長・事務局次長)をもって役員会を構成します。

4. 学校間連携のとりくみを始める前に..

石狩市ではじめて勤務する人は、ご確認ください。

すでに石狩市で勤務している人も、今一度確認しましょう！

石狩市の協議会と連携会議の関係について、**協議会の事務局は研修と親睦を中心に対外の折衝を中心とした事務局運営を進めていく事**とし、連携会議の事務局は、学校事務業務推進のための**共通理解と実践の場としての連携会議を各部の部長や部員と共に運営して行くことを**念頭に置いて進めていきます。このことを踏まえ、今年度も例年同様に協議会の事務局と協力体制を確立し、連携会議を運営します。

5. 2023年度の具体的取り組みについて~<別紙1>

6. 2023年度各グループ計画について

本日は各グループ代表のレジュメに沿って、グループ毎に年間計画について協議して下さい。確認された年間計画については、次回連携会議で全体確認をします。

7. 実践交流

※財政財務活動にかかる実践や事務だよりやホームページ作成等の情報発信の実践はもちろんのこと、学校の中で事務が関わって『これまでのとりくみを変えてみた』という実践の発信を行っていきます。

8. 連絡事項

(1) 会議日程等の連絡方法について

① 連携会議に関する連絡・資料提出等は当面の間、電子メール (C4th含む) を利用します。

※会議案内や議案は当面の間、学校アドレスおよびC4th宛てに送信します。

「Teams」を活用した連携会議の連絡について

※みなさんのPC上「Teams」に「石狩市公立小中学校事務職員協議会（石狩市学校間連携会議）」というチームを作成してメンバーにしてあります。

これを活用し市内事務職員の連絡を取ることも可能です。

(2) ホームページの活用について

① 会議案内や会議資料については、後日連携会議ホームページに掲載するので、いつでも確認することができます。

ホームページアドレス：<http://irenkei.sub.jp>

② ホームページの中の「会員のページ」に入るのにはパスワードが必要です。

ID : PW :

③ホームページには掲示板も設置しています。

掲示板PW :

※HPの更新は、事務局次長（花川中：○○さん）にお願いしています。

(3) 「石狩市公立小中学校の概要」（HP掲載資料）の更新について

※エクセルデータを各校に配布します。提出期日：2023年6月2日（金）

今回お配りしたデータを使用し、作成願います。職種を確認の上、記載し、事務局次長（花川中：○○さん）まで返送願います。

※返信時、ファイルに学校名を付けて下さい。

＜別紙1＞2023年度の具体的とりくみについて

連携会議が現在のスタイルとなってから15年目となりましたが『石狩市の子どもたちのために、できることからはじめよう』を合言葉にし、会をすすめていきたいと考えます。

その柱として、①子どもの学ぶ権利の保障、②生活の場としての学校づくり、③市内各校事務職員が連携して取り組む（学校事務の確立のため）、の3点を掲げ、活動を推進していくこととします。

これらの柱を具体化する取り組みとして①学校財政と学校事務の状況調査、②調査活動の分析に基づく要望実現のための市教委との連携、③予算要望、④「事務をつかさどる」の具現化に向けた実践、⑤実践交流、の5点を軸に活動していくこととします。

また今後、石事協から出される方針にもとづき取り組みに加えていきたいと考えています。

（1）学校財政と学校事務の状況調査

調査活動の目的は、①実態の分析②課題の掘り起こし③具体的改善方法を探ること、にあります。日常の業務を推進する上で、小さな疑問点は数多く存在しますが、それを見過ごすか追及するかが改善の分かれ目となります。連携会議設立当初に比べると具体的な調査数は減少傾向にあります。これは課題が見当たらなくなったということではなく、より困難な課題が残っている状況であると考えられます。一つの調査を実施すると、その結果から新たな課題が見えてくることが多いことからも、調査活動は連携会議の重要な柱ということができます。

→公費化教材・消耗品等調査

→市内で統一する公費化教材

＜小中学校共通＞ 半紙、フラットファイル、用紙代

＜さらにとりくめる学校＞ 白画用紙、ミシン糸、糸のこ刃

（2）調査活動の分析に基づく要望実現のための市教委との連携

設立当初より教育行政への課題提起として「提言」を作成し、それをもとに市教委と課題解決を図ってきました。過去の提言から学校事務業務の改善が図られてきたことも多数あります。

しかし、このコロナ禍において2018年度の提言「教育委員会・学校間の文書送達」以降、分析が十分に行えないことを理由に提言を行っておりません。また連携会議内部においても積極的に提言を行うより要望活動をすすめるべきとの声もあります。

今後は調査分析活動をすすめながらも、教育長との懇談の場や市教委との連携を図りながら学校財政財務活動や学校事務業務の改善を行っていきたいと思います。

※学校教育課において①会議場所の提供を拒む、②説明を求めて直接の説明を拒む、などどちらから連携を求めているにも関わらず、うまくいっていない状況になりつつありますので粘り強く以前の関係に戻るよう働きかけていきます。

(3) 予算要望

円滑な学校運営を支える予算と、その裏付けとなる予算要望は学校運営の根幹といえます。したがって、連携会議としても一定の時間を割いて論議を深め、説得力ある予算要望書作成に取り組む必要があります。また、今日の家庭経済状況から、保護者負担軽減（公費化）について共通認識を図ることも重要な課題となっています。連携会議では、市内教育予算要望委員会の構成メンバーである石狩市教育振興会学校事務部会（石狩市公立小中学校事務職員協議会）の委託を受けるという形式で予算要望資料を作成していますが、予算要望活動は全道的には事務職員の学校財政財務活動の中核をなす業務と位置付けられていることから、連携会議にとってたいへん重要なとりくみと考えます。

→子どもの教育権（学習権）保障の観点を重視し、保護者負担の軽減・公費化につながる予算要望

(4) 「事務をつかさどる」の具現化に向けた実践

2017年（平成29年）4月に学校教育法が改正され、学校事務職員の職務規定が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」になりました。

また2023年4月より石狩市においても「事務職員の職務の内容及びその例並びに事務職員の職務の遂行に関する要綱」が制定されました。

私たちがこれまですすめてきた「働き方」は大きく変わることはないですが、石事協をはじめ全道各地の情勢を見極めながらとりくみをすすめていきます。

また、「いしかり子どもアンケート」について研究部より別途提案はされますが、①昨年度実施を受けた学校のとりくみ、②今年度のアンケートの実施（秋ごろ）を予定しています。

(5) 実践交流

連携会議は研究組織ではありませんが、原則1校1名配置の事務職員にとってOJTには限界があり、他校の実践交流をはじめとする研究・研修が必要不可欠です。したがって、連携会議の活動を市事協の研修活動とリンクさせ、学校事務の職務確立に資する活動をすすめる必要があります。連携会議は、市事協主催の夏季研修会の企画・運営を行っています。夏季研修会では、連携会議でより深く論議を行いたい事項や事務職員の実務としての日常実践の交流などを行っています。

(6) その他

申し合わせ事項として、市事協・連携会議の双方はお互いの活動や取り組みをそれぞれの活動や取り組みとして発表・報告することを可とします。